

通学バス、四月から全市で無料に

文教経済常任委員会で説明

教育委員会は、12月3日開かれた文教経済常任委員会に、児童生徒の「通学援助費・スクールバス等運行事業」についての新基準案を示しました。

それによると、原則として、小学生は片道3km以上、中学生は5km以上を援助の対象とするとしています。

内容としては、スクーリングバス利用料は無料、公共交通機関の場合は定期券分全額、自転車やマイカーなどでの通学は1キロあたりの金額を定めて対象額を、それぞれ市が負担するとなりました。

対象距離より近い場合で

あっても、状況によって教育長の特例を設けることになっていきます。

上野議員は、示された新基準に対して、「これまでの保護者の要望や、柳澤議員や私を含めて何人かの議員が取り上げ、世論をつくってきたものだ。市長と教育委員会の英断に感謝する」と発言。

教育委員会は「教育委員会の思いと市長の考えが一致した」と答えました。

その上で上野議員の「通学距離が2〜3kmで、今まで対象となっていたが新基準で適用外となる生徒も、引き続き援助の対象になるのか」との質問には、「これまで各地域で行われてきた支援を維持する」との説明がありました。

文教科経済常任委員会で、3月議会への提案までに、特例などについてさらに検討を重ねることとし、全員一致で継続審査とすることが決定しました。

新型インフルエンザワクチン接種

「広く手厚い助成を」と平良木議員が主張

市議会厚生常任委員会

12月定例会議会厚生常任委員会では、注目の新型インフルエンザ対策としてのワクチン接種費用の補正予算などが審議されました。

委員会の席上、平良木議員は、「ワクチンの接種費用の助成はなぜ子育て支援という形に限ったのか。他市の例にあるように、優先接種対象者すべてを網羅し、助成額も全額とすべきではないか」と質問しました。

答弁に立った野沢健康福祉部長は、「子育て支援に限ったのではなく、国の補助制度の拡充策として、市の政策として子育て支援をより重視しようという考えで拡充したもので、ワクチンの性格から、すべての方を対象にするという考えは考えにくい」としました。

また、同議員が「基礎疾患をお持ちの方から死亡者も出ている。市民の健康を守る立場から、さらなる制度拡充を考える余地はないか」とただしたところ、「今回のワクチンにはあくまで重症化防止が重点であるが、重症化の例は子どもに集中していることから、子ども対象の助成が有効であると考えている。一度策定した政策は変えにくい」としました。

平良木議員は、健康福祉部関係でこのほかに、養護老人ホームへの入所措置の見直し、生活保護の母子加算復活と来年度以降の存続、それに年齢加算の復活に向けた国への要望などの点について質問を行いました。



平良木議員はこのほかに、病児保育室の拡充や、放課後児童クラブの施設確保についての質問を行いました。

たたかうローカルセンター上越地区労連「雇用確保に全力」を誓う 定期大会で上野議員が連帯の挨拶

5日午後2時から開かれた上越地区労働組合総連合（布施辰夫委員長＝農協労組委員長）第18回定期大会には、日本共産党上越地区委員会と日本共産党上越市会議員団を代表して、上野公悦議員が参加、連帯のあいさつをしました。以下上野議員の感想です。

地区労連は働く人たちの生活と権利の向上や、憲法を守り、日本の平和を守るたたかいに奮闘している、「たたかうローカルセンター」です。

出席してみて驚いたのは、たいへん若い代議員の人たちがたくさんおられたことです。いろいろな集会に出ています。ほとんどの場合、高齢の人たちが頑張っているのが

目立ちます。農協労組やさいがた病院労組などが構成組合になっているせいでしょう。こうした若さの感じられる上越地区労連には頼もしさを感じました。

最後まで参加して、様子を感じたかったのですが、あいにく党務のため都合がつかず、やむなく来賓あいさつの後、失礼させていただきました。



挨拶する上野議員

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 212 2009年12月13日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木 哲也	525-9096	(上中田)